

介護支援などの面で広範な機能が期待されており、一般的にも存在が認知されてきた。

筆者の担当している札幌医大病院のもの忘れ外来では、開設当時(2000年4月)に比べると、軽症患者(初期ATDや軽度認知障害)の割合が増しており、仮性認知症や年齢相応のもの忘れと診断する症例も多くなってきた。早期受診の促進という当初の目的は達成されてきたが、受診までの待ち時間が3カ月以上となっており、結果的に軽症例が増える一因となっている。また、認知症の行動心理学的問題(BPSD)を呈する患者が比較的多いのが特徴で、少量の向精神薬の単剤投与を原則として対応している。

もの忘れ外来の維持には、マンパワーが特に必要であり、担当する医療機関を質・量ともに拡充することが望まれる。

5. おわりに

認知症の病因や危険因子の研究も進み、診断基準も洗練されてきているが、決定的な生物学的マーカーがない現状では、診断における病歴の聴取や症状の評価の重要性は大きいものがある。認知症の診察にいま少しの時間をかけて見落としを少なくし、治療可能な症例への対応を誤らないようにしなければならない。

参考文献

- 1) 目黒謙一: 痴呆の臨床, 医学書院, 東京, 2004.
- 2) Mendez MF and Cummings JF: Dementia: a clinical approach. 3rd ed. Butterworth-Heinemann, Philadelphia, 2003.

お知らせ

『北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーション2008 大阪』 開催のお知らせ

道内の臨床研修病院と医育大学による、平成21年度臨床研修医募集についての説明会を開催します。多くの医学生のご参加をお待ちしております。

また、4月には札幌・東京での開催も予定しております。

日時 2008年2月24日(日) 10時～16時

場所 アジア太平洋トレードセンター(ATC)
オズ棟南館6階 コンベンションルーム1
(大阪市住之江区南港北2-1-10)
<http://www.atc-co.com/atc11/>

申込先 hofuku.tiikiishi@pref.hokkaido.lg.jp
〈お名前・e-mailアドレス・大学名・学年〉を明記願います。

参加病院など詳しくは
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/prezen2008_osaka.htm

問合せ 北海道臨床研修病院等連絡協議会
北海道地域医師確保推進室
TEL 011-204-5214